

PRAEVIDENTIA DAILY (8月23日)

昨日までの世界：為替市場では米資産購入縮小開始懸念を受けたドル高が続く

昨日は、米国で金融政策見通しに影響を与えるような大きな材料はなく、資産購入縮小懸念への典型的な反応である米金利上昇と米株安はみられずむしろ逆に米10年債利回りは小幅低下・株価は大幅上昇したものの、為替市場では前日までのドル高基調が継続、ドル/円相場は米利回りよりも米株高の動きに沿うかたちで続伸し、東京時間朝方に98円を超えた後、98円後半へ続伸した。米経済指標では新規失業保険申請件数(33.6万件)やMarkit製造業PMIは市場予想比若干悪い内容だったものの、新規失業保険申請件数は四週平均でみると33.05万件と5年振りの低水準となったことが好感された面もあるようだ。

この間、中国HSBC製造業PMIが50.1と市場予想以上に改善したことが、対豪ドルでの米ドル高に歯止めをかけたかたちとなり、その後豪ドルは米株高の中で反発基調となった。ユーロ圏PMIも、最初に発表されたフランス分が市場予想を下回ったものの、その後発表のドイツ分およびユーロ圏分は市場予想を上回り(ユーロ圏製造業PMI:実績51.3、市場予想50.7)、独長期債利回り上昇と共にユーロは上昇した。その後特段の材料なく1.3298ドルと一時1.33ドル割れとなるもののすぐに値を戻し、1.33ドル台後半での推移となっている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と主な変動要因

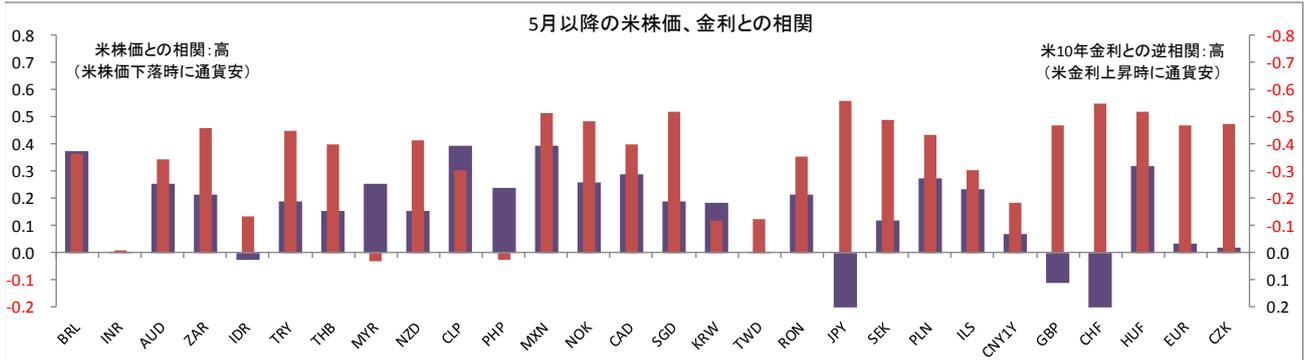
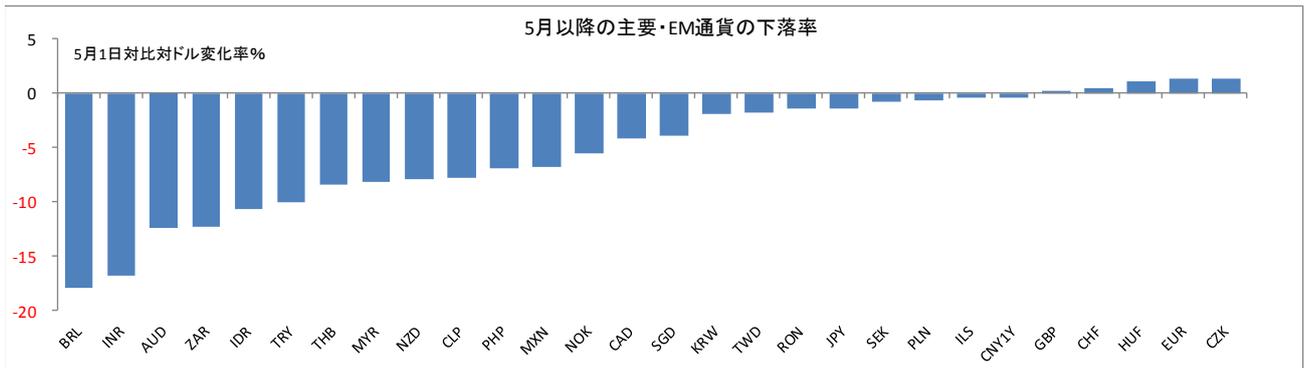
	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+1.1	+0.02	+0.02	-0.00	-0.03	-0.01	+0.02	+0.9	-0.4	+1.1	+0.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.0	-0.01	+0.01	+0.02	+0.06	+0.05	-0.01	+1.4	+0.9	+0.1	-0.10
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.4	+0.04	+0.06	+0.02	+0.11	+0.10	-0.01	+0.5	+0.9	-0.3	+0.0
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.2	+0.01	+0.03	+0.02	+0.09	+0.08	-0.01	+0.5	+0.9	-0.3	+0.0
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.5	-0.02	-0.00	+0.02	+0.02	+0.01	-0.01	+0.9	+0.9		

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの「高慢な偏見」：米金利上昇・株安の併存時には米州通貨

本日の相場材料としては、①米7月新築住宅販売件数(23:00、前月49.7万件、市場予想48.7万件)しかない。カンザスシティ連銀主催のジャクソンホール・シンポジウムでは本日はFischerイスラエル中銀前総裁が進行役で、Yellen・FRB副議長の進行は24日となっている。水曜発表の中古住宅販売は長期金利上昇基調にも拘らず前月・市場予想を上回る伸びを示したが、新築の販売も同様の結果となるかが注目される。

9月FOMCに向けて資産購入縮小開始懸念を背景とした米金利上昇・米株安の併存が続く場合、米金利上昇と米株安の両方に対して同方向に動く傾向がある通貨に注目するのも手だろう。今年5月以降の局面で米金利と米株価との相関性を計算すると、主要通貨、EM通貨の中で米金利との逆相関(米金利上昇時に通貨安)および米株価との順相関(米株安時に通貨安)のいずれもが高いのはブラジルリアル、チリペソ、メキシコペソおよびカナダドルなど米州通貨となっている(下図参照)。地理的隣接性から米国投資家が、米債券、株式および周辺国通貨を売却して一旦ドルキャッシュとして保有するといった行動を取っている可能性が窺える。他方、アジア通貨は米金利との関係性は非常に低い傾向があり、マレーシアリングgit、フィリピンペソや韓国ウォンなどは米株価との連動性の方が高い。この間、円、スイスフランおよびポンドは米金利との逆相関が高い一方、米株価とは逆相関(米株安時に上昇)の傾向があり、セーフヘイブン通貨としてカテゴライズされている面があることが示されており、ドル/円も米債券安・株安併存時にどちらの方向に動くのか分かりにくい面がある。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。

ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。